

インフルエンザワクチンの接種について

インフルエンザの予防接種を実施するに当たって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、予診票に出来るだけ詳しくご記入下さい。お子様の場合には、健康状態をよく把握されている保護者がご記入下さい。

【ワクチンの効果と副反応について】

- 予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くすることが出来ます。
また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。
- 副反応は、ワクチン接種直後から数日中に、注射部位が赤くなる、腫れる、熱を持つ、かゆみなどがあらわれることがあります。全身症状として、筋肉痛、食欲減退、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐、下痢などが現れることがありますが、通常は2～3日で消失します。
- 強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので、必ず医師にお申し出下さい。
- 非常に稀ですが、次のような副反応が起こることがあります。
(1) ショック、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹・呼吸困難など）
(2) 急性散在性脳脊髄炎（接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など）
(3) ギラン・バレー症候群（両手足のしびれ、歩行障害など） (4) 脳炎、脳症、脊髄炎、視神経炎
(5) 肝機能障害、黄疸 (6) 喘息発作 (7) 血小板減少性紫斑病、血小板減少
(9) 血管炎（白血球破砕性血管炎など） (10) 間質性肺炎 (11) 皮膚粘膜眼症候群 (12) ネフローゼ症候群
このような健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人または家族が、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

【予防接種を受けることが出来ない人】

- 明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- 重篤な急性疾患に罹っていることが明らかな人
- 過去に、インフルエンザワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人（他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前に、医師にその旨を伝え、判断を仰いで下さい）
- その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

【予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない人】

- 発育が遅く、医師や保健師の指導を継続して受けている人
- 風邪などのひき始めと思われる人
- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患のある人
- 予防接種を受けた時に、2日以内に発熱、発疹、蕁麻疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人
- 今までに、けいれんを起こしたことのある人
- 過去に免疫不全と診断されたことがある人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患のある人
- 薬の投与または食事（鶏卵、鶏肉など）で、皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことのある人
- 妊娠の可能性のある人

【ワクチン接種後の注意】

- ワクチン接種後30分間は、急な副反応が起きる可能性があります。様子を観察し、すぐに医師と連絡が取れるようにしておきましょう。
- 接種当日の入浴は差し支えありません。接種部位を清潔に保ちましょう。（但し、擦るのはやめましょう）
- 激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- 万一、高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けて下さい。